

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成17年12月7日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 下重 清	東海大学文学部講師
荒牧 重雄	山梨県環境科学研究所所長
井上 公夫	日本工営株式会社コンサルタント国内事業本部副技師長
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
久保田 昌希	駒沢大学文学部歴史学科教授
小山 真人	静岡大学教育学部教授
松井 宗廣	財団法人 砂防・地すべり技術センター総合防災部長
松尾 美恵子	学習院女子大学教授
宮地 直道	日本大学文理学部助教授

の各委員が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに (小山真人・下重清・宮地直道)

第1章 富士山の山としての特性

第1節 富士山の構造 (宮地直道)

第2節 火山活動の歴史

1 富士山の噴火史 (宮地直道)

2 歴史時代の火山活動 (小山真人)

3 富士山噴火と関東・東海地震の関係 (小山真人)

コラム 更級日記の作者は富士山の噴火を見たか (小山真人)

第3節 富士山をめぐる人々と地域の歴史像 (久保田昌希)

第2章 宝永噴火の推移と噴出物

第1節 史料に基づく宝永噴火の前兆と推移 (小山真人)

1 絵で見る宝永の大噴火

2 文書記録からたどる宝永噴火の推移

コラム 和暦と西暦 (小山真人)

コラム 時刻の換算 (小山真人)

第2節 宝永噴火の噴出物の分布の特徴 (宮地直道)

第3節 遺跡に認められる宝永噴火の噴出物 (宮地直道)

第4節 噴火に遭遇した各地の人々 (小山真人)

1 東海道沿線の状況

2 北麓での状況

3 江戸の状況

第3章 時代背景とファーストインパクト

第1節 宝永という時代背景 (松尾美恵子)

第2節 幕府・小田原藩の視察と情報収集 (下重清)

コラム 江戸で風邪が流行る (下重清)

第3節 「砂降り」被害

- 1 須走 (松尾美恵子)
- 2 山北 (久保田昌希)
- 3 小田原 (下重清)

第4節 被災者の訴願行動 (下重清)

第4章 一次災害への国家的対応と社会的影響

第1節 小田原藩の緊急救助活動 (下重清)

第2節 幕府領編入と諸国高役金 (松尾美恵子)

コラム 江戸時代の人々にとっての領主 (下重清)

コラム 江戸時代の石高 (下重清)

第3節 復興事業(「砂除け」)の特質

- 1 駿河国駿東郡 (松尾美恵子)
- 2 相模国足柄上・同下郡 (下重清)

コラム 「天地返し」 (井上公夫)

第4節 地域社会へ与えた影響

- 1 信仰への影響 (久保田昌希)
- 2 人口減少と「亡所」化 (松尾美恵子)
- 3 入会山野をめぐる争論 (下重清)

第5章 長期化する二次災害への対応

第1節 頻発する土砂災害の洪水 (井上公夫)

- 1 土砂災害はいつどこで起きたのか - 土砂災害のタイプ -
- 2 富士山麓での被害
- 3 丹沢山地と酒匂川中流域における土砂災害
- 4 酒匂川下流の足柄平野における土砂災害
- 5 山北村・皆瀬川村と皆瀬川開削工事
- 6 酒匂川流域以東における土砂災害

コラム 元禄地震の被害状況 (井上公夫)

第2節 政権交代と享保政治 (松尾美恵子)

第3節 砂防・治水政策の変容 (下重清)

- 1 駿東郡における再開発支援策
- 2 酒匂川の大口堤

コラム 文命宮の祭礼 (下重清)

第4節 復興へのステップ (下重清)

- 1 旧領への復帰
- 2 須山口登山道の復活

おわりに～富士山宝永噴火の教訓～ (全委員、事務局)

- 1 過去の噴火履歴からの教訓
- 2 宝永噴火の推移からの教訓
- 3 災害への対応からの教訓
- 4 頻発する土砂災害と洪水の要点と教訓

資料編

- 1 参考文献一覧
- 2 古文書記録より整理した堆積深、付図（井上公夫）
- 3 江戸期における酒匂川水系（相模国）水害年表・グラフ（下重清）

荒牧委員、鎌田委員、松井委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）荒木 潤一郎	内閣府（防災担当）企画官
石井 晴雄	内閣府（防災担当）企画官（平成17年9月まで）
久津摩 敏生	内閣府（防災担当）企画官（平成17年3月まで）
池田 泰浩	内閣府（防災担当）行政実務研修員（平成17年3月まで）
清水 透	内閣府（防災担当）行政実務研修員
西田 治彦	内閣府（防災担当）行政実務研修員（平成17年3月まで）
山田 周作	内閣府（防災担当）行政実務研修員（平成18年3月まで）

平成18年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。